

RECARO FORMEL 3 CUP (ドイツF3) Round 3&4 in Hockenheim

練習走行～第3戦/第4戦 予選 レポート

4月27日(木)	練習走行	8位
4月28日(金)	第3戦予選	計測できず
	第4戦予選	10位

2006年のレカロカップ第3・4戦は、先週のオッサースレーベンからここホッケンハイムに舞台を移し、木曜日の公式練習からレースウィークの幕を開けた。事前テストなしでこのシリーズに参戦することになった松村選手にとって、この2時間の公式練習が初めてのホッケンハイムでの走行となった。初走行はできればドライコンディションで臨みたかった松村選手だが、生憎の雨模様。しかし、前回のオッサースレーベンでもウェットコンディションは常に上位のタイムをマークしていたように、ここホッケンハイムでもウェットコンディションの中で一時はトップタイムを叩き出すパフォーマンスを披露し、常に上位のタイムをマークしながら練習走行を続けていた。ところが、残り時間40分程のところで松村選手は、モトドロームコーナー1つ手前のコーナー出口のゼブラゾーンでリヤが滑り始め、そのままコースアウト。濡れた芝生の上をほぼ減速することなく滑っていき、モトドロームコーナー入り口外側のコンクリートウォールに右リヤからヒット、そのまま振りかえして右フロントもヒットしてしまったのである。このアクシデントで残りの時間を走行することができなくなっただけでなく、ミッションケースが割れ、エンジンのエアボックスやインテーク関係が破損、右側前後のホイールやアップライトやサスペンションアーム関係も大破してしまい、デファレンシャルにまで影響がでるようなダメージとなってしまった。しかし、残りの時間で松村選手がクラッシュ前にマークしたタイムを上回ったのは数台しかおらず、8番手の順位で公式練習が終了した。

メカニックの夜を徹しての作業により、何とか予選1回目の出走に間に合った松村選手のマシンは、午前9時15分にドライコンディションの中、コースイン。初めてのスリックタイヤでの走行が開始された。しかし、松村選手のマシンはサインガードでサインボードを持ったまま最終コーナー方向を見つめるメカニックの前に姿を現すことなく、ゆっくりとゆっくりとピットロードに入ってきたのである。マシンに駆け寄りメカニックに対し、松村選手は車両の不具合箇所を克明に説明。ピット出口からコースインした直後にリヤタイヤに駆動がかからず、アクセルを微妙に調整しながらでもゆっくりとしか前へ進まなかったのである。メカニックの手によりピット作業エリアに運ばれたマシンは、直ぐにジャッキアップされ、各部がチェックされた。右リヤのドライブシャフトを上下に動かした途端、メカニックは走行を諦めるよう松村選手に伝えたのである。その後、更に詳しく分解したところ、ドライブシャフトの先端にある、トリポットジョイントが大破していたことが判明。前日のダメージの影響で割れてしまったのか、製品不良なのかは判らないが、このトラブルで松村選手は1周も計測できず、貴重なドライコンディションでの走行経験の機会も失ってしまった。結局、チームオーナーが即座にオーガナイザーへ嘆願し、明日の第3戦は最後尾からのスタートが許されることとなった。第3戦のポールポジションを獲得したのは、開幕戦を制した#6 TUNG選手のチームメイトである#5 KOOL選手。松村選手のチームメイトである#5 OTHOMAZ選手が8番手グリッドを獲得した。

そして、迎えた午後4時50分、予選2回目が始まった。松村選手は、インターバルの間に再びメカニックの手によりリヤセクションの各部を念入りに整備されたマシンを、「今度こそは」と慎重にコースへと導いていった。予選2回目の開始前に松村選手はチームと新品タイヤの使い方について話し合い、予選の中盤で一度ピットインし、タイヤを交換。予選1回目で使用せずに残ったタイヤも投入し、新品タイヤを2セットでアタックを行うこととなっていた。序盤はF3の前に走行していた別のクラスのマシンがコース上に撒いたオイル処理の影響で、各車とも本格的なアタックをすることができず、徐々に徐々にペースを上げていくという状況となった。松村選手も初めてのドライコンディションとオイル処理された路面という条件の中、慎重に周回を重ね、6～8番手前後のタイムで走行を重ねていた。そして、7周が終了した時点でピットイン。タイヤ交換とリヤウイングの調整をした後、再びコースインし、アタックを再開。しかし、ドライコンディションの経験がまったくない松村選手は、各コーナーでの限界をなかなか容易には掴むことができず、クリアラップを探しながら、1分40秒台中盤のタイムで走行を続ける。そして、タイヤも完全に温まり、クリアラップもようやくとれた15周目に前の周から一気に約1秒タイムを縮め、1分39秒189のタイムをマーク、10番手となった。「何とかもう1周できればもっとタイムが縮められる」と更にアクセルを踏み込んだ松村選手であったが、コントロールラインを通過する直前にチェッカーフラッグが振られ、予選終了となってしまった。その後、

松村選手のタイムを上回る車両はなく、日曜日の第4戦は10番手のスタートが確定した。結果的にドライでの経験がまったくなかった松村選手にとっては、ニュータイヤの効果を期待するよりも、予選中にピットインすることなく、1周でも多く走行を続行した方がタイムアップに繋がったかもしれない、という反省点は残ってしまったが、走行を終えた松村選手は、「まだまだわからないコーナーがたくさんあり、もっともっとタイムは縮まります。ストレートスピードが今一伸びていない感じがする点を除いては、トップグループのタイムまでは(1.4秒差)十分に狙えると思います。」と、既に明日の決勝へと気持ちを切り替えていた。

天気予報では週末は雨の可能性がかなり高く、レースでは波乱が予想されるため、最後尾からのスタートでも十分にポイント獲得の可能性があると松村選手は今から明日の決勝レーススタートを心待ちにしていた。

< 予選後のドライバーコメント >

まずは公式練習で大破したマシンが予選2回目でもようやくちゃんと走ってくれて正直ホッとしています。明日は、最後尾からのスタートですが、何とかポイントを獲得したいです。いける自信はあります。応援宜しくお願いします！

予選結果表 : <http://www.formel3.de/ergebnisse/2006-04-30-q1.pdf> (1回目)
<http://www.formel3.de/ergebnisse/2006-04-30-q2.pdf> (2回目)

レーシングドライバー 松村浩之公式ウェブサイト <http://www.hiro-matsumura.com/>

